

西河技術経営塾研究科前期 講義録 SH11

作成：渋谷 加津美

**日時**：平成 29 年（2017 年） 12 月 5 日（火）午前 14 時 00 分 ～ 午後 15 時 00 分

**場所**：アーネスト育成財団内会議室（渋谷区代々木 1-57-2 ドルミ代々木 704 号）

**講師**：小平和一郎

**研究生**：渋谷加津美

**講義名**：(SH11) <sup>1</sup>「第 12 章 中期計画を作成する」(4)

**講義資料**：講師を担当する第 12 章の講義原稿案

## 講義内容

### 1. 概要

第 11 回目（SH11）の講義（研修）を行った。内容は、以下の通り。

第 12 章「中長期計画を作成する」ーエンジニアリング・ブランド構築を戦略の要におくーの講義資料案(04)について講義担当分の最終確認を行うとともに、研究科での学びの振り返りを行った。

### 2. 研究内容

#### (1) 概要

製造業でサービス業との融合が進んでいる。電機産業でもオープンイノベーションを活用し、サービス業展開が行えることを明確にするとともに、その成功要因を分析する。

研究科では、「思いやりの心」や「おもてなしの心」で顧客と対応な関係を継続することが必要であるが、そのままでは、ビジネスにはならない。サービスとなる価値を提供する契約まで持ち込むことが必要である。つまり、ホスピタリティからサービス（契約）へ移す戦略の構築が重要となることを学んだ。

#### (2) 技術経営の基礎を学ぶ

成功要因とは、成功へと導く経営 TOP の責任、戦略と戦術を示しリーダーシップを発揮して自ら取り組まなければならないこと、目標に向けての全組織で取り組む仕掛けなど全ての要因が成功するための徹底的に考えられた戦術構築（技術に裏付けられた）が必要であり、この戦術を裏付ける技術力こそ成功要因を導く力である。

今後、上記により、自社ビジネスを構築し、サービスが深在ニーズとなっているケースにも展開可能となることを検証する。

#### (3) その他

研究科の中間報告では、何を研究した、何に気付いたかが重要であり、その具体的内容を報告するよう指導を受けた。

### 3. 次回までの宿題

11 回の講義を終えて、研究科で学んだ内容を中間報告として報告する。

### 4. 次回日程

(1) 次回日程 12 月 13 日（水）の評議会後に決定する。

#### (2) 参考資料

研究の参考資料として、継続して下記を選定した。

『イノベーションの法則性』柴田 友厚著

以上

---

<sup>1</sup>（注）SH01：SH とは、Shibuya のこと。01 は、1 回目。第 3 回は、SH03 となる。